

芸術工学のこれから

— 芸術工学の意義と課題を改めて問う —

2015年5月15(金)～17日(日)

CURIO-CITY 神戸芸術工科大学梅田サテライトオフィス
大阪府中央区梅田 グランフロント大阪タワー A16 階

趣旨

私たちは芸術工学の旗印のもとに、芸術と工学の融合を説き、科学技術の人的運用、諸学の横断的・総合的展開を説いてきました。結果としてデザインの概念を拡張し、その実践的領域の拡大に貢献してきたのではないかと思います。しかし、こうした考え方が広く浸透し、様々な名前の下に実践的創造的活動が幅広く行われるようになった今日、芸術工学の独自性が薄れ、求心力が低下してきているのではないかと危惧するのです。確かに連携と充実の時なのかもしれません。それぞれが実践の積み重ねに熟成を期待しておられるのかもしれませんが、しかし、私たちが今歴史の大きな転換点にあると考えれば、芸術工学に次の時代を切り開くもっと大きな働きが求められるのではないかと、あるいは、その原点に立ち返ってみればもっと深く問うべきことがあるのではないかと、あるいは、科学の巨大なうねりを考えれば、その中で人々の生を豊かなものとするために、もっとしっかりとした方法論的基盤が必要なのではないかと、と考えるのです。昨今の社会的動向とデザインの展開方向を改めて確認し、今一度、芸術工学の今日的意義と課題を考えてみたいと思います。

5月15日(金)

理事会 14:30 - 17:30
理事懇親会 18:00 -

5月16日(土)

代議員(社員)総会 10:00 - 11:30
昼食 11:30 - 12:45
表彰式 12:45 - 13:00
減災デザイン・プランニングコンペ
会長挨拶 13:00
シンポジウム 13:10 - 14:40

芸術工学のこれから

— 芸術工学の意義と課題を改めて問う —

趣旨説明 小林 敬一 (東北芸術工科大学)
パネリスト 中村 俊介 (株式会社しくみデザイン)
出原 立子 (金沢工業大学)
黒田 宏治 (静岡文化芸術大学)
伊藤 香織 (東京理科大学)

休憩 14:40 - 14:50
テーブルセッション 14:50 - 11:30
報告・総括 16:15 - 17:15
終了 17:15
懇親会 18:00 -

5月17日(日)

エクスカージョン 10:00 -
山崎のサントリー工場、大山崎山荘美術館、他

実行委員 小林敬一、相良二郎、井上貢一
問合せ先 dra.japan@gmail.com

芸術工学会

Design Research Association

